

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	8	0	4つの訓練室があり、広さは十分にある。
	2	職員の配置数は適切であるか	6	2	10名定員を特性別に2つの小集団に分けて支援を行っている。一訓練室毎に2名、通常は5名の職員で支援を行っている。昼休憩の際に職員配置を工夫する必要があるが、国の基準は満たしている。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	6	2	以前幼稚園だった施設を活用しているため、構造化された空間になっている。老朽化が進み、昨年は床の張替え工事をを行い、バリアフリーも改めて整えた。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	7	1	昨年度、4つの訓練室の床の改修を行い、日々の清掃がしやすくなった。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	5	1	・ミーティング以外に回覧やノートを活用し、パート職員との共有も図っている。 ・CとAが十分でないと感じる。日々の業務が忙しいが、職員がもっと参画して改善を図ってきたい。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	7	0	保護者の声にも真摯に向き合っていくことを大切にしている。現状維持は退化でしかない。常に改善あるのみ。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	6	0	当然公開している。(事業所からの通信とホームページ)
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	5	1	連携のために来所された専門職の方に運営改善に関する意見を求めることを心掛けている。改善のヒントになることがある。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	7	0	年間購読の「パレット」は療育の具体を学ぶためにとても有効である。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	6	0	5領域を意識した支援を支援計画に位置付けているが、アセスメントや重点の位置づけに職員間のばらつきがまだ多少ある。
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	5	1	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」、「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	6	0	支援計画こそが生命線である。支援のベクトルや具体的支援について保護者は当然であるが関係機関が共有し支援を展開していくことが望まれる。特に、5領域からの観点や、支援環境を整え効果を高めるための家族支援は極めて重要である。それぞれの観点からの具体的支援が「見える化」されていく支援計画に心掛けている。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	6	0	当然心掛けている。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っているか	3	3	・担当者中心であるが、チームを意識している。 チームではいえない。担当者任せで、それをミーティングで共有している。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	6	1	・意図的・計画的な支援プログラムとなるように工夫している。チームとして共有と活用が一層進むように取り組んでいく。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成しているか	6	1	5人程度の小集団療育を基本にししながら個別支援を機能化させることを大切にしている。ただ、日々の利用者が固定でないために個別支援のタイミングと内容についての連携の難しさを感じることもある。
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	4	2	毎朝ミーティングを行っている。支援プログラムの内容や個別支援についての共有を図っている。朝9時から利用する利用者がある場合など、パート職員がミーティングに参加できないことがあり課題である。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	5	2	問題や気になったことは、日をまたがないよう情報共有とチームでの解決に臨んでいる。児発管がとりまとめをしている。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	5	1	記録は取れている。検証と改善につなげることを強化していく必要はある。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	5	1	モニタリングは確実にを行い、保護者と支援計画について協議している。

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	6	0	施設内に相談支援事業所が併設されている。利用者ごとの担当職員と児童発達支援管理責任者の2名が相談支援専門員と日常的に連携している。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	4	2	相談支援専門員との連絡調整により、関係機関連携を推進している。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか	5	2	保護者を通してではあるが、連携体制を整えている。今年度、てんかん発作による薬の処方や救急搬送が必要になった際も、病院と保護者との連携を確実にし、医療機関につないだ。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか	4	2	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	6	0	関係機関連携での共有は極めて大切である。相談支援専門員も連携の活動に参加するように働きかけ調整している。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	4	2	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	3	3	専門機関との連携やレクチャーはとても有効である。しかし、あまり行えていない。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	1	5	ほとんどない。児童館を年に数回利用することがある程度である。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	1	5	相談支援専門員が参加することはあるが、通所の職員が参加することはない。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	6	0	利用時の帰りに、担当職員が保護者に活動の様子を伝え、共通理解を図っている。
保護者への説明責任等	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか	1	5	困ってみえる保護者には職員から声を掛け、相談支援との連携を図った上での相談を行っている。今後は子育てサロンなどを企画していきたいと考えている。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	6	0	当然行っている。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	6	0	当然行っている。「共有」のない支援は絵に描いた餅に過ぎない。5領域を意識した支援をいかに具体化していくかが問われている。家庭環境の整備と家庭における療育的観点での子育ては重要だと考えている。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	6	0	毎回の利用時に当日の様子を保護者に伝え、情報共有を行っている。その際、子育て等の相談も受け付け、必要に応じて面談対応を仕組んでいる。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	0	6	保護者同士のつながりを望む声が届いている。保護者会というより子育てサロンというお茶会から始めていくことを検討している。
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	6	0	ちょっと気になる小さな出来事についても保護者と共有を図り、困り感が生じないように心掛けている。事故の発生や苦情に対しては「日をまたがない対応」を徹底し、真摯に対応している。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	6	0	「ゆりかごメッセージ」を発行し、情報提供を発信している。使わなくなったおもちゃや絵本などの寄付の依頼もお便りでやっている。
	38	個人情報の取扱いに十分注意しているか	6	0	当然留意して対応している。
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	6	0	合理的配慮の質の向上に努力している。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	1	5	立地的に地域交流は難しいと考えている。

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	6	1	感染情報を大きく掲示するなど、「共有」と「見える化」に心掛け、保護者にも啓発を行っている。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	5	2	職員を中心に年2回訓練を行い、消防署にも実施報告を行っている。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか	7	0	服薬は毎利用時に保護者が申請し職員が共有し対応している。てんかん等の対応はどの職員も共有し確実に応急手当・救急対応できる。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	5	2	保護者からアレルギー症状について共有はしている。昼食は家庭から持参していただく弁当をお願いしている。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	7	0	二度と同じ事案を発生さないように1年前のヒヤリハット事案を職員で共有し、職員研修に活用している。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	7	0	職場内研修だけでなく厚生労働省による動画研修も全職員が受講した。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	6	0	訓練室からの飛び出し・自傷・他害等の危険がある場合に訓練室を施錠することがある。全保護者に説明し同意書も整えている。記録簿も記録している。

○この児童発達支援自己評価表は、児童発達支援センター又は児童発達支援事業所の職員の方に、事業所の自己評価をしていただくものです。「はい」、「いいえ」のどちらかに「○」を記入するとともに、「工夫している点」、「課題や改善すべき点」等について記入してください。

ゆりかご 児童発達支援



保護者

アンケート調査結果 2024

公開日 令和7年1月16日

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	★ご意見
環境・ 体制整備	①	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	12	1	0	0	7名の方からご意見をいただきました。集計表の下の「自由記述欄」に意見をまとめました。当事業所としてのコメントも記載させていただきます。
	②	職員の配置数や専門性は適切であるか	9	3	0	1	
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境※ i になっているか。また、障がい の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切にな されているか	13	0	0	0	
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に 合わせた空間となっているか	11	1	1	0	
適切な支援の 提供	⑤	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画※ ii が作成されているか	12	1	0	0	
	⑥	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	11	2	0	0	
	⑦	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	11	2	0	0	
	⑧	活動プログラム※ iii が固定化しないよう工夫されているか	11	2	0	0	
	⑨	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	3	2	2	6	
保護者へ	⑩	運営規定、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	11	2	0	0	
	⑪	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明がなされたか	12	1	0	0	
	⑫	保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング※ iv 等)が行われているか	4	2	1	6	
	⑬	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができているか	11	2	0	0	
	⑭	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	10	1	2	0	

の 説 明 等	⑮	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	3	0	8	2	
	⑯	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申し入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	10	1	1	1	
	⑰	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	11	1	0	1	
	⑱	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	10	1	1	1	
	⑲	個人情報の取り扱いに十分注意されているか	12	0	0	1	
非 常 時 等 の 対 応	⑳	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか。	11	2	0	0	
	㉑	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	9	1	1	2	
満 足 度	㉒	子どもは通所を楽しみにしているか	11	2	0	0	<p><ゆりかごコメント> 通所を楽しみにしている子が84%と高い点は、職員にとって大きな励みになります。ゆりかごならではの療育を求めて取り組んでいる最中ですが、お子様の成長の姿でこそ評価していただけるように今後も研鑽に励んでいきたいと考えております。</p>
	㉓	事業所の支援に満足しているか	11	1	1	0	
		合計	229	31	18	21	299

自由記述欄

「改めて考えると、ありがたいことだなあ。」とか「あれっ？どうなってるのかなあ。」

そんなちょっとした気付きや違和感をぜひ声に出して教えてください。

【1】 年に2回の面談でくわしく教えてもらえるのでありがたいです。

小学校就学の情報は、年中の時から教えてもらえると(早めの時期)ありがたいです。

<ゆりかごコメント>

この方のように年中くらいから小学校への情報を集め、保護者としてよりよい進路を考えていくことはとても大切です。多くの市町村教育委員会は年長児の保護者に対して「修学相談会」を夏休み前から始めていきます。近年では年長以外の保護者の希望者にも対応しています。また、特別支援学校は年中児に対しても学校見学・学校説明会を個別に行っていますが、保護者だけで行うのは大きな負担を伴います。園の先生や市の保健師さんに相談されることもあると思いますが、市教委の就学担当者がキーマンです。

ゆりかごでは、施設長が小中学校教員・スクールソーシャルワーカー・主任児童委員の経験があり、相談に応じます。お気軽にご活用ください。

【2】 朝、車の中でゆりかごに近づいてくると、ニコニコしてすぐうれしそうに通えるようになった姿を見て、私もうれしく思っています。職員の皆様が、子どもたちの安心できる場所をつくってくれているんだなあ実感します。ありがとうございます。

* 同内容の③にコメントを記載。

【3】 何の活動をしたかなどお迎えの時に教えていただき安心して預けられます。通所を楽しみにして「いつ行く？」 「今日はゆりかご？」と楽しみに話してくる姿が多いです。

＜ゆりかごコメント＞

「全ては子どもたちの笑顔と自立のために」というスローガンに少しずつ近づけていると思えるご意見をいただき、職員一同元気をもらえます。

【4】 お弁当の食べ方がきれいなので、きっと先生が見て支援してくださっているのだろうなといつもありがたく思っています。家庭では、なかなか生活の細かいところまで見られないのでありがたいです。

＜ゆりかごコメント＞

11：30からが昼食の時間ですが、「食べさせる」ことを目的にしていません。食に関する特性をつかみ食事が楽しいという感覚を育むこと、その上で食具の使い方もマスターしていけるように考え取り組んでいます。食具の使い方はスプーン・フォークから始まりますが握り方や手首の動作には発達段階があります。この段階で手首や指の感覚と動かし方を高めていくことは、箸や鉛筆の持ち方にも影響します。

作業療法士の職員は在籍していませんが、週に1～2回作業療法士の方に来ていただき現場で職員も指導を受けています。作業療法士の方と個別契約されている対象のお子さんが複数みえるからですが、多職種が連携して療育を推進していくことは大切だと考えています。

インターネットでも「食具の使い方」などで検索すると、支援のポイントが紹介されています。保護者の皆様にもお薦めします。

【5】 施設周りの樹木や草刈りで危険そうな所もなくなり、子どもも散策できるようなお庭になってうれしいです。感染状況なども周知してくださり安心です。

＜ゆりかごコメント＞

「環境が人を創る」とも言われます。

環境には様々な要素がありますが、施設管理もその一部です。安全で安心できる環境に整えていくことが子どもたちの育成に欠かせません。当事業所の管理する

3年前まで樹木管理がなされず、太い枯れ枝が落下していることもよくありました。施設周辺には2mを超える雑木や枯れ草も放置されていました。当然ながらハチ・ムカデなどの繁殖も盛んで室内に入り込むことも少なくありませんでした。施設管理をする職員がいなかったからです。

現在も施設管理員はおりませんが、施設長が木の伐採・草刈りなどの環境整備に心掛けています。これも「全ては子どもたちの笑顔と自立のために」という思いの具現だと考えています。

【6】 個人的な相談にもていねいに対応していただけてありがたいです。安心して子どもを預けることができ子どもも楽しそうに通うことができありがたいです。ありがとうございます！！

＜ゆりかごコメント＞

問題のない子もいなければ、問題のない家庭ありません。ただ、タイミングが違うということと周囲の方には見えにくいだけです。

当事業所は、お子さんへの通所支援施設ですが、同時に「子育て支援」も大切だと考えております。次年度に向けては「子育てサロン」などのお茶会やおしゃべり会なども行っていきたいと考えていおります。

【7】 通所を始めてから言葉が増え、日常の行動も前より落ち着いてヒヤッとすることが本当に減りました。出かけることに対し少しおっくうになっていましたが、今では気にせず外に行けるのが親としてもすごくありがたいと思っています。

＜ゆりかごコメント＞

子どもたちには「素直に反応し行動する」という共通の特性があります。特に多動傾向があるお子さんの場合、部屋の中にいると外部の様子が刺激となり飛び出そうとしますし、仲間の動きやおもちゃにも素直に反応し奪おうとすることも自然な反応です。施錠したり、ずっと見張っていたりなどの対応も、それ自体が刺激になり素直に反応するため飛び出し行動などが強化されていき、マイナス効果となります。

制限をかけるのではなく、ちょっとした我慢や頑張り認めてあげることで判断力が高まり、徐々に集団適応が進んでいきます。簡単ではありませんが、数か月、半年、1年を振り返った時には、確実な発達につながっていきます。

当事業所が行っている5人程度での小集団療育は、集団適応に向かう一つの段階を担っていると考えております。

岐阜県による用語の補足説明

※③ i 「本人にわかりやすく構造化された環境」は、この部屋で何をするのかを示せるように、机や本棚の配置など、子ども本人にわかりやすくすることです。

※⑤ ii 「児童発達支援」は、児童発達支援を利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のことで、これは、児童発達支援センター又は児童発達支援事業所の児童発達支援管理責任者が作成します。

※⑫ iv 「ペアレント・トレーニング」は、保護者が子どもの行動を観察して障がいの特性を理解したり、障害の特性を踏まえた褒め方等を学ぶことにより、子どもが適切な行動を獲得することを目標とします。

「ゆりかご」からの補足説明

- ② 子ども5人に対し職員1人が配置基準。これを満たさない行政指導の対象です。
- ⑨ 今年度は一度地域の児童館を利用しましたが、限定的です。
- ⑫ ペアレントトレーニングは実施していません。
- ⑮ 保護者会等は現在行っていません。
- ⑳ 人権擁護(虐待防止・身体的拘束)マニュアル、感染症対策マニュアル、危機管理マニュアル、防災計画等を整えています。令和5年5月に発作対応で救急要請をしましたが、保護者連絡、消防署通報、他の利用者の別室移動を7分間で終わりました。
気象警報発令対応や感染症対応についても、時系列で玄関掲示を行い、保護者との共有を進めています。
- ㉑ 今年度も昨年度も避難訓練を実施し、消防署・岐阜市都市防災政策課に報告しました。緊急対応時の職員の動きについての訓練・研修に力を入れた内容となっています。

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ゆりかご成育センター（児童発達支援）		
○保護者評価実施期間	令和6年11月1日		～ 令和6年11月22日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	16	(回答者数) 13
○従業者評価実施期間	令和6年11月5日		～ 令和6年11月22日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年1月16日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の前向きさが強みであり、宝である。3年間離職者を出していない。 「全ては子どもたちの笑顔と自立のために」を理念に掲げ、職員の質の向上に向き合っている。真摯に療育に向き合う「チームゆりかご」の職員そのものが強みである。 職員が学びを推進しており、児童発達支援管理責任者の実践研修、強度行動障害支援の実践研修を終了した職員がいるだけでなく、社会福祉士養成所での通信教育を受講中の職員もいる。その他に医療的ケア児支援コーディネーター、社会福祉士、相談支援専門員の資格をもつ複数の職員がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員研修の充実を図っている。 朝のミーティングを単なる打ち合わせと共有の場としてだけでなく、研修の重点を確認する場にも活用している。 ・管理者自身も令和7年度精神保健福祉士の国家試験合格を目指す。学び続ける職員集団の渦を全員で創り出していく。 ・非常勤の保育士も複数いる。その職員にも研修してもらえるように、動画による研修や紙面研修を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・法人としての研修システムの構築を目指すべく、法人の本部会議で検討を始めていく。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・4つの訓練室があり、活動スペースの広さは強みの一つである。中庭やテラスも活用できているし、畜産センターの遊具も5分の所にあり利用しやすい。 ・様々な特性の利用者10名を2つのグループに分け、訓練室ごとに支援プログラムを展開している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2つの訓練室ごとの支援プログラムを準備しているが、その日の利用者に応じた支援を工夫する職員間の連携と共有を大切にしている。 	
3	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者との共有を大切にしている。 具体的には、連絡帳への記入だけでなく、利用者をご家族がお迎えにみえた際に、その日の様子から成果と気になった点を丁寧にお伝えしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あえてご家庭への送迎を行っていない。毎回の利用時に保護者との情報共有に心掛けている。 	

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<ul style="list-style-type: none"> ・岐阜市の北部に位置しており、利用するにあたり保護者が送迎にかかる時間を要するケースが多い。送迎対応を希望する声があるが行えていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後等デイサービスとの多機能型での運営のため時間的に送迎対応を仕組めていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園・保育園への送迎対応を検討していく。
2			
3			